



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月3日

上場会社名 ファイズホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 9325 URL <https://www.phyz.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 大澤 隆  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役上席執行役員 (氏名) 西村 考史 TEL 06-6453-0250  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	23,983	15.7	1,174	12.4	1,181	9.4	732	8.7
2024年3月期第3四半期	20,721	14.2	1,045	14.9	1,079	12.0	673	7.7

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 761百万円 (3.9%) 2024年3月期第3四半期 733百万円 (15.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	68.25	68.14
2024年3月期第3四半期	62.81	62.71

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	10,415	3,834	35.9
2024年3月期	7,743	3,350	42.4

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 3,741百万円 2024年3月期 3,284百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	19.00	—	13.00	32.00
2025年3月期	—	13.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	13.00	26.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 2024年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当13円00銭 記念配当6円00銭（会社設立10周年記念配当）

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,769	15.4	1,541	16.8	1,540	12.8	937	9.7	86.58

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 詳細は、添付資料P.3「1.経営成績等の概況(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	10,822,800株	2024年3月期	10,822,800株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	88,511株	2024年3月期	94,511株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	10,732,079株	2024年3月期3Q	10,728,318株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況.....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結貸借対照表に関する注記) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、国内企業による積極的な設備投資などを背景に内需は持ち直しつつあるものの、賃上げ等による個人消費の回復が期待されたほど進まず、円安や物価高の影響で緩やかなものにとどまりました。また、中国や欧州の経済減速で輸出が低迷し、国内の景気は緩やかな改善にとどまりました。

国内の物流市場は、主にEC関連商品を扱う宅配便の取扱個数の伸び率及び製造業の輸出関連製品などの荷動きが鈍化しました。ドライバー不足に伴う運賃・料金の上昇基調が続いたことが物流各社の売上増加に寄与した一方、人件費や燃料価格の高騰、パートナー企業への備車費(支払運賃)上昇などのコストアップ要因が重なり、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような厳しい経済・社会情勢下において、当社グループでは、主にEC(注1)ビジネスを手掛ける企業を対象にしたサードパーティー・ロジスティクス(3PL)(注2)事業である「ECソリューションサービス事業」として、①物流センターの運営機能(業務)を提供する「オペレーションサービス」、②拠点間の幹線輸送や配車プラットフォーム機能の提供(利用運送)、ルート配送やラストワンマイル配送などを担う「トランスポートサービス」の2つのサービスメニューを軸に事業拡大を図ってきました。

また、輸出入貨物に関する海外および国内の運送取扱(ドレージ手配等)や、通関手続き代行サービスを提供する「国際物流サービス事業」の事業拡大にも努めてきました。

コンピュータシステムの開発や、システムエンジニアの人材派遣を行う「情報システム事業」についても事業拡大を進めてきました。

なお、前連結会計年度より、量的重要性が増したため「情報システム事業」を報告セグメントとしております。

「オペレーションサービス」では、大手ネット通販会社向け、流通業向け、メーカー向けの物流センター運営受託業務(人材派遣・業務請負・3PL)が堅調に推移しました。また、前連結会計年度に立ち上げた物流拠点9カ所が引き続き安定稼働したほか、ラストワンマイル配送センター向けの人材派遣サービスも伸長しました。

「トランスポートサービス」では、配車プラットフォームサービス事業は、取引社数(荷主および実運送会社)が増加しましたが、「2024年問題」の影響により空車情報が減少し、成約件数は減少しました。

実運送事業では、拠点間輸送(幹線輸送)においては、増車要請への対応を進めました。また、「2024年問題」でトラック及びドライバーの確保が困難になる中、不採算案件の見直しや運賃・料金の値上げ交渉にも引き続き取り組みました。ラストワンマイル配送では、家電専門店から受託するEC商品配送の地域拡大など積極的な営業により取扱個数を伸ばしました。

「国際物流サービス」では、円安や中国からの輸入貨物の取り扱い減少、支払運賃上昇などの影響を受けました。また、アパレル関連分野以外の新規顧客の開拓や不採算案件からの撤退、組織体制見直しなどにより収益性改善に取り組みました。

「情報システム事業」では、既存顧客および新規顧客の旺盛な開発・改修需要に対処し、金融機関や官公庁向け情報システムの開発受託や技術者派遣などが堅調に推移しました。また、マイナ保険証対応の機器販売にも積極的に取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高23,983,725千円(前年同四半期比15.7%増)、営業利益1,174,926千円(前年同四半期比12.4%増)、経常利益1,181,739千円(前年同四半期比9.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益732,434千円(前年同四半期比8.7%増)となり、売上高及び各段階利益について過去最高を達成しました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。セグメントの売上高は外部顧客に対するものです。

なお、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

#### ECソリューションサービス事業

物流センターの運営受託事業では、大手ネット通販会社向けセンター(在庫型・通過型拠点および配送拠点)の業務請負、人材派遣、3PL(一括受託)が引き続き堅調に推移しました。また、2025年3月稼働予定の自社運営倉庫の事業運営に向けた採用活動や教育活動にも注力しました。

輸配送の領域では、配車プラットフォームサービス事業において取引社数の拡大が進みましたが、「2024年問題」の影響で空車情報が減少し、成約件数は減少しました。実運送事業では増車要請に対応し、拠点間輸送が増加しました。また、運賃・料金の値上げ交渉にも引き続き取り組みました。ラストワンマイル配送事業では、取扱個数が増加しました。

その結果、当セグメントの売上高は22,070,208千円(前年同四半期比16.2%増)、セグメント利益は1,076,576千円(前年同四半期比19.0%増)となりました。

また、ECソリューションサービス事業の各サービス別の売上は次のとおりであります。

① オペレーションサービス

大手ネット通販会社向けの物流センターを中心とした既存受託案件に加え、前連結会計年度に立ち上げた物流センター、配送デポ（配送センター）、3PLサービスを展開する自社運営倉庫などの新規受託案件が堅調に推移しました。その結果、売上高は15,309,313千円（前年同四半期比19.3%増）となりました。

② トランスポートサービス

配車プラットフォームサービスの取引社数は増加しましたが、成約件数は減少しました。拠点間輸送やラストワンマイル配送などの実運送サービスは堅調に推移しました。その結果、売上高は6,760,894千円（前年同四半期比9.8%増）となりました。

国際物流サービス事業

中国経済の不透明感や円安が続く中、不採算案件からの撤退やターゲット領域の見直しなどを進めました。また、新規顧客の開拓や収益性改善に取り組みました。その結果、当セグメントの売上高は553,724千円（前年同四半期比10.1%減）となりました。

情報システム事業

金融機関・官公庁向け情報システムの開発受託や技術者派遣などが好調に推移しました。また、マイナ保険証対応の機器販売にも積極的に取り組みました。その結果、当セグメントの売上高は1,359,792千円（前年同四半期比21.4%増）となりました。

（注1）ECとは、インターネットやコンピュータなど電子的な手段を介して行う商取引の総称。また、Webサイトなどを通じて企業が消費者に商品を販売するオンラインショップのこと

（注2）サードパーティーロジスティクスとは、荷主が第三者であるロジスティクス業者に対し、物流業務全般を長期間一括して委託すること

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,672,021千円増加し、10,415,559千円となりました。これは主に現金及び預金が1,376,118千円、受取手形及び売掛金が928,075千円増加したことによるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,188,394千円増加し、6,581,358千円となりました。これは主に買掛金が406,747千円、未払費用が326,031千円、1年内返済予定を含む長期借入金が1,350,775千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ483,626千円増加し、3,834,201千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が増加したものの、配当金の支払いにより利益剰余金が減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月9日発表の「2024年3月期決算短信」からの変更はありません。今後、重要な変更がある場合には、適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,425,587	3,801,706
受取手形及び売掛金	3,184,205	4,112,281
商品	15,098	2,510
貯蔵品	1,754	3,207
未収還付法人税等	3,454	23,354
その他	128,823	133,559
貸倒引当金	△1,637	△1,698
流動資産合計	5,757,286	8,074,921
固定資産		
有形固定資産	788,110	978,116
無形固定資産		
のれん	317,409	284,366
その他	120,148	119,719
無形固定資産合計	437,558	404,086
投資その他の資産		
投資有価証券	59,081	67,056
敷金及び保証金	539,123	729,664
その他	162,378	161,713
投資その他の資産合計	760,583	958,434
固定資産合計	1,986,252	2,340,638
資産合計	7,743,538	10,415,559
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,189,145	1,595,892
未払費用	1,117,809	1,443,840
短期借入金	15,000	35,000
1年内返済予定の長期借入金	※ 231,370	※ 402,739
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
未払法人税等	188,834	229,376
未払消費税等	428,338	500,503
賞与引当金	55,119	29,118
その他	513,455	482,712
流動負債合計	3,749,071	4,729,182
固定負債		
長期借入金	335,939	1,515,345
社債	15,000	10,000
繰延税金負債	49,611	47,467
退職給付に係る負債	2,352	2,394
役員退職慰労引当金	62,448	68,349
資産除去債務	3,977	3,994
その他	174,561	204,625
固定負債合計	643,891	1,852,175
負債合計	4,392,963	6,581,358

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	326,522	326,522
資本剰余金	254,387	253,787
利益剰余金	2,746,290	3,199,711
自己株式	△45,582	△42,688
株主資本合計	3,281,618	3,737,333
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,268	4,194
その他の包括利益累計額合計	3,268	4,194
非支配株主持分	65,687	92,673
純資産合計	3,350,574	3,834,201
負債純資産合計	7,743,538	10,415,559

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	20,721,963	23,983,725
売上原価	18,904,657	21,982,837
売上総利益	1,817,305	2,000,887
販売費及び一般管理費	772,291	825,961
営業利益	1,045,014	1,174,926
営業外収益		
受取利息	40	58
受取配当金	1,130	840
固定資産売却益	21,077	15,069
投資有価証券売却益	6,659	—
助成金収入	6,715	5,613
雑収入	7,628	3,234
営業外収益合計	43,252	24,815
営業外費用		
支払利息	5,053	10,682
固定資産除売却損	1,169	1,531
和解金	—	3,000
雑損失	2,097	2,788
営業外費用合計	8,320	18,002
経常利益	1,079,946	1,181,739
税金等調整前四半期純利益	1,079,946	1,181,739
法人税等	348,591	422,290
四半期純利益	731,354	759,448
非支配株主に帰属する四半期純利益	57,529	27,014
親会社株主に帰属する四半期純利益	673,824	732,434



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	731,354	759,448
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,699	2,377
その他の包括利益合計	1,699	2,377
四半期包括利益	733,053	761,826
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	673,396	733,359
非支配株主に係る四半期包括利益	59,657	28,466

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等は法人税等調整額を含めた金額であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

※ 当座貸越契約

当社及び連結子会社（日本システムクリエイト株式会社及び株式会社ファインドオン）は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく当四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
当座貸越極度額の総額	1,430,000千円	1,410,000千円
借入実行残高	30,000	20,000
差引額	1,400,000	1,390,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	106,175千円	130,356千円
のれんの償却額	18,775千円	33,042千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ECソリューションサービス事業	国際物流サービス事業	情報システム事業			
売上高						
外部顧客への売上高	18,986,065	615,719	1,120,178	20,721,963	—	20,721,963
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,206	—	5,467	6,673	△6,673	—
計	18,987,271	615,719	1,125,645	20,728,636	△6,673	20,721,963
セグメント利益	904,496	13,938	64,967	983,402	61,611	1,045,014

(注) 1 セグメント利益の調整額61,611千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△347,713千円およびその他の調整額409,324千円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

その他の調整額は主に報告セグメントに帰属しない持株会社に対する経営指導料の消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
	ECソリューションサービス事業	国際物流サービス事業	情報システム事業			
売上高						
外部顧客への売上高	22,070,208	553,724	1,359,792	23,983,725	—	23,983,725
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,285	—	5,866	7,152	△7,152	—
計	22,071,493	553,724	1,365,659	23,990,878	△7,152	23,983,725
セグメント利益又はセグメント損失(△)	1,076,576	△4,902	73,545	1,145,219	29,706	1,174,926

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額29,706千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△331,193千円およびその他の調整額360,900千円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

その他の調整額は主に報告セグメントに帰属しない持株会社に対する経営指導料の消去であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

前連結会計年度に実施した株式会社ファインドオンとの企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、当第3四半期連結累計期間に確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴うのれんの金額の修正は生じておりません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より量的な重要性が増したため、報告セグメントとして、「情報システム事業」を新たに追加しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。